



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

沖縄平和行進 特集号 2023.6.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

軍備増強、戦争NOの訴え高らか5・15平和行進

鹿児島県護憲平和フォーラムから参加の16名は、沖縄の日本復帰51年の節目の日の5月12日～14日にかけて開催された「5.15沖縄平和行進」と「県民大会」に、そして最終日の15日は「辺野古基地ゲート前座り込み抗議行動」に参加してきました。

これまでコロナ禍のもとで規模の自粛を余儀なくされた集会と県民大会は、久しぶりに全国から1,000名を超える参加を受け、「沖縄に基地はいらない」「地位協定の抜本的、見直しを求める」「命こそ宝」などを訴え「中部基地コース」と「南部戦跡コース」で平和行進を行い、鹿児島は中部基地コースに参加し、12kmを全員完走しました。（全体の参加者1,950名）

県民集会では、実行委員会より「若者が多く、初めての参加が多かったことに感謝し、全国に沖縄の現実を広めて欲しい」との提起がされ、県民大会宣言を採択しました、玉城デニー沖縄県知事も県民大会に参加し、基地の無い平和で文化豊かな沖縄を作っていく決意を述べました。

以下、「沖縄平和行進」「県民集会」ならびに「辺野古基地建設反対抗議行動」に参加した方々の感想文を編集しました。

各構成組織にての活用をお願いします。



中部コースの先頭を歩く鹿児島の皆さん

沖縄平和行進に参加して

始良伊佐ブロック

福田 ひとみ

平和センターの仕事に就いて 4 年近くになりますが、今回初めて平和行進に参加しました。沖縄は 10 年ほど前に九地連の書記評で訪れて以来でした。当時、基地があるばかりに沖縄に住む人々に多くの影響があるという現状を聞いた時、私は、「沖縄はリゾート地」というイメージを覆され、まだ戦争は終わっていないと衝撃を受けたのを思い出します。



私の自宅のお隣には沖縄出身の老夫婦が住んでいらっしゃいました。

沖縄に帰られる度に、「沖縄に行けていいなあ」と思っていましたが、実際沖縄に行き沖縄の現状を聞いた時、何も知らなかった自分が恥ずかしくなりました。

それからは折に触れ、おばあさんに沖縄戦のことを話してもらいました。

激戦地で逃げ場を失い死を覚悟して投降したことなど、まさに地獄の苦しみを経験された方で、当時のことをノートに書いていらっしゃいました。

そのノートを読み続けるには、辛く苦しい内容でした。

その時も「私に何ができるのだろうか?」との思いで、まずは仲間に機会があるごとに「沖縄の現状」を伝えましたが、恥ずかしいことに、月日が経つとだんだんとその思いも薄れてしまっていました。

今回の行進の時、平和記念資料館を訪れた時、78 年前の沖縄の人々やお隣の老夫婦はどんな思いで戦場を彷徨われたのだろうかと思うと、10 年前以上に平和への願いを強くした経験でした。

今年の行進は 1950 名と多くの仲間が平和を訴え行進しました。

これだけ多くの方が参加することで、「一人ではない」と勇気と元気をもらいました。参加者がこの思いを持ち帰り、伝えることで大きな力となって、基地建設阻止と基地のない平和な島の実現、そして加速する軍事化と戦争への流れに歯止めをかけられると信じます。

辺野古のテント村を訪れたとき、当時と変わらず監視行動が行われていたことに頭が下がり、ゲート前の座り込み行動に「勝つまであきらめない」の精神を感じました。

遠く離れた鹿児島で「できることをやり続ける」ことが今の私にできることかなと思いました。

5. 15 平和行進に参加して

始良伊佐ブロック 鹿教組 小平新一

私は小学校の教員です。子どもたちに教え考えさせることが仕事です。教科だけを教えるのではなく、子どもたちに平和や人権について考えることも大切にしてきました。太平洋戦争の沖縄戦のこと、占領下にあった沖縄や復帰運動、そして今の米軍基地問題についても子どもたちに伝え、その問題を考えさせてきました。沖縄平和行進は、以前から知っていましたが、今回念願叶って初



めて参加することができました。

参加してみて、沖縄の負担があまりにも大きいことを目の当たりにしました。米軍基地も実際に歩くことでその大きさを体験することができましたし、金網と有刺鉄線で区切られているその土地がとても物騒に感じました。日々、当たり前のように軍事練習をしており、戦闘機や軍用機が離発着しています。平和に安全に暮らしたいと願う住人にとって、それは不必要なものだと改めて感じました。自分の住んでいるところにも自衛隊基地があります。いつのころからか、入り口に立つ隊員は銃を手にしています。それが、日常になっていることにも怖さを感じます。

また、歩いていると Y ナンバーや A ナンバーといった軍関係者の車を数多く見ました。調べてみると自動車税や重量税の優遇措置などがあり、米軍関係者による交通事故が起きても、正当に処分されないといった事実もあります。これも日米地位協定のせいなのかと思うと本当に改正、撤廃が必要だと思いました。

参加者に若い人が多いことも印象的でした。シュプレヒコールでも様々な県の青年層が代わる代わる声を上げていました。また、辺野古の座り込みでも青年層が多数いて、力強く話をしていました。平和を求める声は、若い人たちにも確実に広がりを見せています。今、政府は、馬毛島や南西諸島の軍事要塞化も含め、有事を煽って基地の拡大や軍事費の

増額など閣議決定で進めています。本来あってはならない手段で多数の原理で無理やり進めています。「それはおかしい」と考えている人が全国にたくさんいることが分かり、力をもらうことができました。

今回の平和行進を通して、肌で感じたことを仲間に伝え、また、子どもたちに伝え、平和な社会を実現するためには基地はいらない、これ以上の軍拡化はしてはいけないという運動をさらに広げていきたいと強く思いました。



沖縄平和行進に参加して

南薩ブロック 上野 忠美

今回初めて参加しました。沖縄の上空から見た青い海と自然の美しさは見事でした。

結団式の基調講演で、日米軍事一体化がますます強化され、南西諸島へのミサイル配備などによって、再び沖縄ひいては日本が攻撃の標的となり、新たな戦争へと向かいつつある状況を再認識しました。単に騒音だけでなく基地からの水質汚染など多くの問題があることを初めて知り、広大な米軍基地があることによって、沖縄県民に押し付けられている

不条理に、まだ戦争は終わっていないと感じました。

若い世代の参加者が多く、次の世代につながっていると感じました。

私自身、平和行進に向け歩く練習を積んでいったせいか、何とか 12 km を無事に歩くことが出来ました。右翼による妨害を受けながらの行進でしたが、嘉手納基地は思った以上



に広いのに驚きました。鹿児島は中部コースの先頭で行進し、先導車でのシュプレヒコールの掛け声を全国の若い参加者が、到着地まじかまで途切れなく訴え続ける姿にパワーをもらいました。

辺野古基地前での座り込み行動では、歌を全体で力強く唄い元気をもらいました。辺野古基地の広さにも圧倒されました。



座り込みの方々の機動隊への必死の抵抗やシュプレヒコールなど、力強い闘い方に感動を覚えました。

若い方々の報告を聞き、鹿児島でも護憲平和の運動を若い人たちにつなげていく活動が必要と強く感じました。

新聞記事やテレビ放映など、沖縄では大きく取り上げられているのに、それ以外の地域での報道の少なさに多くの問題があることを感じました。同じく鹿児島での報道量の少なさに温度差を感じました。

私の地元南さつま市上空でも、低空飛行や軍用機の爆音が聞こえる時があり、不快感・恐怖を感じますが、それとは比べものにならないくらい、沖縄での爆音やその回数を思うと、県民のストレスは測り知れないと感じました。

これからも、沖縄に住んでいない私たちも、沖縄だけの問題と考えず、自分たちの問題として捉え、報道されていない現状を含め、実際に見たり聞いたりしたことを、周りの人々に伝え、基地のない沖縄・日本を、そして、戦争のない世界をつくるために微力ながら、更に護憲・平和運動に関わって行きたいと思いました。

沖縄平和行進に参加して

村上真起子

わたしはこれまで、ニュースで様々な沖縄での事件を知っても大変だな。かわいそう。そういう思いはあっても、まるで他人事でした。

今回初めて平和行進に参加し、午前、午後と合わせて 12 キロ程の距離を歩きましたが、あんなに大勢の人が心をひとつにし、皆同じ気持ちで、平和に向かって進んでいるんだと、心搖さぶられる想いでした。そしてまた、辺野古新基地建設地での座り込みを体験し、ただ、大変、かわいそうという言葉では済まされない、とても信じ難い光景を目の当たりにしました。

わたしは 1 日、しかもほんの数時間、その場に居ただけですが、それだけでも胸を締め付けられるような、何とも言い難い気持ちになりました。そしてそれを毎日、何年もの長い間、沖縄を守る為に頑張っておられる方達に、本当に頭の下がる想いでした。

今この沖縄の現状を、もっともっと沢山の人に知ってほしいと、切に願います。



生きたくとも、生きられなかつた人々の為にも、二度と同じ過ちを犯してはならないと思います。

そしてこれからはわたしも他人事ではなく、玉城デニー沖縄県知事が語られたように、自分事として受け止めようと思います。わたしにとって今回の沖縄での 4 日間は、決して大袈裟ではなく、これまで生きてきた人生の中で、何よりも貴重な時間でした。本当にありがとうございました。心より感謝いたします。

平和行進に参加して

個人会員 上野正美

元気の出た 4 日間だった。那覇空港上空からは判らなかつた米軍基地は、開会会場に向かう途中、走っても走っても鉄条網だらけ、これが本当に日本国内かと考えされられる現状となつてゐる。

今、日本は沖縄、徳之島、奄美本島、種子島（馬毛島）、鹿屋と基地が点から線になつて出来つつある。鹿児島県内も辺野古のように基地づくりの対象になつてもおかしくない。馬毛島もしかり。

1,000 人の結団式、平和行進（中部ルート）鹿児島は先頭だった。鹿児島の団長の指示でもあり、青年・女性が先導車でシュプレヒコールを行い、1 日 12 キロの行進も疲れを感じなかつた。

15 日の県民大会の中で玉城デニー知事が「本県は 100 個のうち 70 個のランドセルを背負っている」との例えで話したこと、最初は意味が解らなかつたが、参加者の中で話し、日本の基地負担 7 割を沖縄が背負っているということだった。

また、連帯のあいさつの中で、辛淑玉（のりこえネット共同代表）さんが、「戦争起こすも人間、戦争無くするのも人間である」と発言されたが、私自身、次の世代に平和運動を伝えて行きたい、まず身近な家族・兄弟からはじめ、広げたい。

最後に、辺野古基地建設の湾を近くから見ることが出来たこと。平和祈念館巡りも含めて、今後の生き方で大きなことを学んだ機会でした。

次回の集会（平和行進）は若い方々に是非参加して学んでいただきたいと思います。12 キロ行進以上の価値はあります。

沖縄平和行進に参加して

奄美市職労青年部 部長 上畠 天晴

今回、初めて沖縄の平和行進に参加させていただきました。私自身、沖縄には高校時代の遠征で来ただけだったため、ほぼほぼ初めての沖縄でした。テレビや新聞のニュースで



沖縄の話題を目にするようになりましたが、平和行進に参加するまではどこか遠くの出来事のような気がしていました。まず、全国団結式に参加した際、沖縄の人がいないにもかかわらず、全国各地から集まっていること、自分と同じくらいの若い人たちが多いことに驚きました。飯島先生により南西諸島の現状の講演があった後、翌日の行進に向けた決意表明からの

「団結がんばろう」で気持ちが一つになったのではと思います。

2 日目の平和行進では、まさかの一番先頭に鹿児島が並ぶ状況になりました。先導車に乗り込みシュプレヒコールをさせていただいたのはとてもいい経験でした。正直、何をしゃべったかは緊張で覚えてません。嘉手納基地の第 1 ゲート前でみんなで基地に向いてシュプレヒコールをしたのも、一体感があったかと思います。なにより、1,000 名以上の行進だったため、後ろを振り返った時の行列は壮観でした。

3 日目は、県民大会に参加し、知事や国会議員の挨拶、平和行進の報告などが行われました。皆さんの話を聞き、沖縄（自分の地元）をどれだけ大事に思っているかということをとても感じることができました。午後からは、ひめゆりの塔と沖縄和平祈念公園を初めて訪れることができ、資料や映像などを見て胸が締め付けられる思いでした。改めて戦争のない平和な世の中が続くことを願ったところです。

3 日間をとおして、初めて見聞きすることも多くとてもいい経験になりました。また、同じ鹿児島のメンバーとは、行動や食事を共にする中で仲良くなることができ、参加できて本当に良かったと思っております。

現在は、奄美市職労の青年部長をしておりますが、少しでも今回の体験を伝えていければいいなと考えております。（追伸）3 日目の夜は、それぞれ別行動だったのに連絡も取らずに合流したのは運命的でした！笑

沖縄平和行進に参加して

高退教 上野 和美

平和行進に参加する機会を与えてもらいました。沖縄に全国から集まった人数の多さで初日から熱気を感じました。

私たち鹿児島が参加した 1200 人の中部基地コース、歩くのは好きですが、午前午後それぞれ休憩なしに 6 キロは正直きつかったです。そんななかでも、若者のシュプレヒコールは元気を与えてくれました。

翌日の県民大会に来賓で参加されていた玉城デニー知事、「沖縄に基地はいらない」と一貫した姿勢、ブレない信念は本当にすごいと思いました。これからも応援し続けます。

また、のりこえネット共同代表の辛淑玉さんが、「多くの誹謗中傷を受けたときは怖くて膝がガクガクしましたが、仲間が支えてくれました。もし仲間の皆さんのが攻撃を受けたら今度は私が支えます」と連帯の挨拶をされました。

人は 1 人では弱い、いろいろ怖くて当たり前、それが 2 人 3 人と仲間が増えることで弱さや怖さを克服でき、強くなれると再認識できました。

また何人かの方も言われましたが、「自分ごとで考える」このことを忘れないようにします。

最終日に辺野古新基地建設阻止の座り込み行動に参加しましたが、工事用ゲート前の能面のような多くの警備員や



警察官、土砂を積んだ数え切れないほどのダンプトラックの列に沖縄の現実を見た思いです。

それに対し私たちは指示どおり「非暴力・抵抗」で臨みましたが、日本政府は米軍より沖縄県民の切実な声を聞いてほしいと強く思います。

この社会はまだ男性優位と言わますが、この座り込み行動に関しては女性男性同じ立場、同じ思いだと感じました。

多くを学び、考えさせられた3泊4日でした。県民大会で月桃の歌を合唱しましたが、心に残り Y o u t u b e で月桃を聞きながらこれを書きました。

参加された皆さんお疲れ様でした。またお会いしましょう。

「ワジワジ」「ガッティならん！」

代表 下馬場学

「PEACE ACTION2023 5・15 平和行進」団結集会で沖縄の代表が「二つの方言を覚えて帰ってください」と言われた。「ワジワジ」と「ガッティならん！」だ。あの悲惨な歴史を持つ沖縄に基地を集中させ、辺野古新基地建設そして宮古島・石垣島・与那国島にミサイルを配備し対中国の最前線に立たせるヤマト。

2日目・13日は読谷村役場からの出発だ。読谷村は米軍が沖縄本島に最初に上陸した村だ。米兵は「まるでピクニックのようだ」と言って上陸したという。上陸作戦で最も危険なのは隠れるものがない海岸で攻撃されることだ。しかし、日本軍はその絶好の機会である米軍上陸の際、攻撃しなかった。沖縄本島での戦いを長期化させるためである。また、激励に来ていただいた読谷村長の「沖縄はまだ占領下にある」という言葉が重く心に残った。



午前は嘉手納町民広場を目指して行進する。途中、赤い鳥居が二つ横に並ぶトライ基地を通る。米軍が作ったトライだという。何故作ったかの理由は確定していない。途中から右翼の街宣車がものすごい音量で行進を妨害する。しかしを、行進の先導車は冷静に県民への呼びかけやシュプレヒコールを繰り返してくれた。沖縄・全国を米軍が自由気ままに蹂躪し続け、日本を有事の際の米国の盾とされようとしている現状の中での日本国民の分断。行進に店舗から自宅から出迎えてくれる市民。わたしたちの運動のあり方が問われる。



昼食場所は嘉手納町民広場。疲れた身体にはありがたい。が、78年前を思うと、それでいいのかとも思う。78年前どんな思いで戦火を逃れてさまよったのか。

午後北谷町役場を目指して出発。韓国の自然保護活動団体も参加。嘉手納基地を左に見ながら行進。延々と続く金網のフェンス。正に「基地の中に沖縄がある」。出発直後、磨島事務局長が先導車に乗り込み鹿児島の現状を報告した後シュプレヒコール。それを機に、次々と各県の参加者からのシュプレヒコール。特に若者のシュプレ



ヒコールが続く。元気づけられる。嘉手納基地第一 GATE 前では基地に向かって、仲宗根中部コース団長の音頭で「米軍はいらない」のシュプレヒコール。改めて「鹿児島にも米軍はいらない」を確認できた。ゴールの北谷町役場で頂いた沖縄ぜんざいが冷たくて、疲れも吹っ飛ぶ。感謝。

3日目・14日は玉城知事・人権団体「のりこえねっと」共同代表の辛淑玉も参加しての県民集会。玉城知事は「沖縄のことを自分事としてほしい」辛さんは「沖縄の人たちに裁判を支えてもらった。苦しい時はわたしが支えるよ」と語った。

4日目・15日は沖縄復帰記念日。辺野古に行って座り込む。目の前に迫る機動隊に、有無を言わさず新基地建設を強行する政府の意思を感じる。

同じことが鹿児島・馬毛島でも。全国の仲間と連帯・団結して闘っていこう！

「琉球処分」再び三度

鹿児島ブロック 前田秀一

1879年（明治12年）明治政府が琉球王国を日本国に併合し、沖縄県として日本の領土にしたことを琉球王朝の王城・首里城が炎上した歴史と重ねあわせた。太平洋戦争時の本土防衛のための捨て石としておびただしい琉球の民の血が流された。沖縄が日本に復帰する際の日米密約（核持ち込みを日本政府が応諾した）が暴露された。琉球処分が三度繰り返されたのだと強く感じた。その琉球処分に薩摩藩が深く関与していたことも歴史を学ぶ謙虚さを痛感した。

沖縄の灼熱の太陽と、澄み切った海。似つかわしくない広大な米軍基地。四度の琉球処分をさせないよう頑張って行きたい。



《県護憲平和フォーラム HP 作成しました》



**沖縄平和行進から長崎原水禁大会へ
平和のバトンを繋げて行こう**

**6月6日から「県内での非核平和行進・
自治体要請行動」をスタートします。**